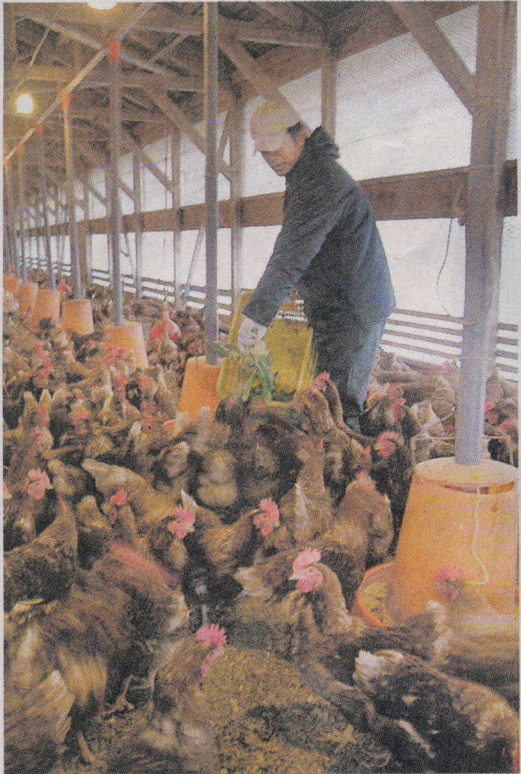


特産特食

山形県境まで約二キロ、県内最北端の村上市(旧山北町)中浜集落。日本海が目前に広がる鶏舎では波の音をバックに、モーターの交響曲がスピーカーから流れる。隣には屋外の遊び場があり、鶏たちは日中、出たり入ったり自由に動き回る。

養鶏業「オークリッチ」の富樫直樹社長(四七)が自家栽培のカリフラワーの葉を持ってくる。鶏が一斉に群がってくる。「鶏はストレスを感じやすく、土の上で遊ぶことで野生の姿に戻る」。音楽を聞かせると、明らかに



好物のカリフラワーの葉に集まる鶏。自然に近い環境や餌で育てるため、鶏舎のにおいは少ない＝村上市中浜

餌、音楽自然な味演出

価格5倍もファン離れず

上がり、ほのかな甘みがある。「卵料理はもちろん、卵かけご飯にぴったり。天然塩で食べる」と、素材の味がはっきり分かる」と富樫社長は強調する。

餌はトウモロコシなどにカキ殻を混ぜ合わせた独自の配合飼料だ。ほかに、地元で取れた青菜や自生する野草を根っこごと直接、食べさせる。鶏ふんは野菜の肥料として農家に使っても

らっている。飼育数は約三千羽。一日に約二千個の卵を産む。毎日午前六時すぎから、一つ一つ手で採卵する。三種類ある商品ごとに飼育方法も違う。「同業者からは非効率と言われるが、うちのような超零細養鶏場は差別化しないと生き残っていけない」。養鶏は父の由さん(七三)が一九六二年に始めた。当初は一羽ずつの引退で廃業も考えたが、「長年の固定客もおり、辞めるわけにいかない」と町役場を退職し引き継いだ。

現在、顧客は県内や関東地方を中心に約三百力所に及ぶ。レストランなど業者向けが半数を占める。営業で販路開拓に努め、売り上げは年々少ずつ伸びているが、生産費の五割を占める飼料代の急騰に頭が痛い。

食の安全に向け、衛生管理を徹底し、県畜産協会の「クリーンエッグ生産農場」の認定を受け、病原菌の検査結果をホームページで公開する。地元の小中学校の給食に採用され、小学生の体験学習も受け入れている。

放し飼い鶏の卵

村上市



鶏を放し飼いで育てたオークリッチの卵「野芳卵」。卵白の盛り上がりは鮮度の良さを示す

つおりに入れる「ケージ飼育」だったが、卵価低迷や人口減少など経営環境が年々厳しさを増す中、庭先で飼っていた昔の卵の味を求め、八六年から放し飼いに切り替えた。三年前、由さん

定番含め3種販売

〈メモ〉定番商品「野芳(やほう)卵」は1個50円。ケーキや茶わん蒸しなど調理向きの「素玉(そおう)卵」、希少品種の「横斑(おうはん)ブロマスロックの卵」は60円。1セツト(10個)単位で販売。コメや

赤カブ、塩とセツトにした贈答用商品も。養鶏場に近い国道7号沿いに卵の自動販売機もある。

問い合わせはオークリッチ、(0120)915647。営業は午前9時～午後5時。日曜定休。http://www.tamaotofo.com

サンデー経済